

地理A，地理B

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

地 理 A

1 前 文

共通テストは、大学（専門職大学，短期大学，専門職短期大学を含む。以下同じ。）への入学志望者を対象に，高等学校（中等教育学校及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）の段階における基礎的な学習の程度を判定し，大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的としている。

共通テストでは，平成21年告示学習指導要領において育成することを目指す資質・能力を踏まえ，知識の理解の質を問う問題や，思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題が重視されている。地理の問題作成方針においても，思考の過程に重きを置きながら，地域を様々なスケールから捉える問題や，地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり，資料を基に検証したりする問題，系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題を含めて検討すると示されている。なお，評価に当たっては，報告書（本試験）14ページに記載の8つの観点により，総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

第1問 地図の技能と活用，日本の自然災害に関して，地図や資料等から地理的諸事象に関する情報を読み取り，地図やGISと自然災害や防災に関する知識を基に，人間と自然環境との相互依存関係などに着目して，諸地域の自然環境や自然災害について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問1 正距方位図法の世界地図について，図法に関する知識や技能を基に，地図上の距離・方位等に関する見方や考え方を働かせて，地図に当てはめて考察する基礎的・基本的な良問。

問2 氾濫原における土地利用について，陰影起伏図から起伏の特徴を読み取り，地形に関する知識を基に，地形と土地利用の関係性に関する見方や考え方を働かせて考察する問題。

問3 二つの宿場町の立地について，それぞれの地形図を読み取り，読図の技能を基に，宿場町の立地の地理的特徴を判断する問題。

問4 日本列島周辺における地震の特徴とその被害や対策について，地震の発生や対策等に関する知識を基に考察する問題。

問5 自然災害の種類別の危険度について，地図から各自然災害の特徴を読み取り，各災害の発生条件に関する見方や考え方を働かせて地形条件や被災のスケールを考察する問題。

問6 日本各地の自然環境や自然災害について，写真や地図から自然環境に関する特徴を読み取り，地形や気候に関する知識を基に，自然災害に対する備えを考察する基礎的・基本的な良問。

第2問 世界の生活・文化に関して，多様な地図や資料を読み取り，各地域の自然環境やそれに適応した人々の暮らしに関する知識を基に，各地域に見られる生活・文化の特色を地理的な見方や考え方を働かせて考察する問題で構成されている。

問1 世界各地の伝統的な文化について，各地域における楽器の演奏や儀式の写真からそれぞれの地域の文化的特徴を読み取り，自然環境と生活・文化に関する知識を基に考察する問題。

- 問2 世界の生活・文化について、異なる2地点の住居を撮影した写真と説明文から各地域の気候や住環境の特徴を読み取り、住居と自然環境の関係性を考察する問題。
- 問3 アフリカの宗教の地域性について、各国の宗教別割合を示した地図や説明文から各宗教の広がりや歴史的背景に関する情報を読み取り、宗教や気候に関する知識を基に考察する問題。
- 問4 異なる食文化の融合について、写真の説明文からベトナムで見られる料理の特徴を読み取り、ベトナムの文化や歴史に関する知識を基に考察する問題。
- 問5 国境を越えた観光行動について、宿泊者数や国際観光収支の特徴を読み取り、各国の経済状況や地理的結びつき、歴史的背景などの見方や考え方を働かせて考察する良問。
- 問6 時差を利用した経済・余暇活動について、各国・地域の位置及び時差に関する知識を基に、提示された条件を踏まえて各事例の適否を判断する問題。
- 第3問 東南アジアを事例地域として、多様な資料を読み取り、東南アジアの生活・文化と自然・社会条件に関する知識や理解を基に、思考力等を発揮しながら解答する問題で構成されている。
- 問1 東南アジアの気候について、複数の資料から時期別の降水量や植生景観の特徴を読み取り、気候と植生に関する知識を基に、緯度と位置に関する見方や考え方を働かせて考察する問題。
- 問2 東南アジアの島嶼部地域の地理的特徴について、文章に示された内容を読み取り、自然条件や経済条件に関する知識を基に、地図に当てはめて考察する問題。
- 問3 熱帯地域で行われる農業の分布について、各地点の標高や見られる自然景観を読み取り、自然環境や農業に関する知識を基に、農業の地域的差異を考察する問題。
- 問4 東南アジアの宗教や民族について、3か国の祝祭日を示した表から各国の宗教的な特徴を読み取り、民族や宗教分布に関する知識を基に、民族的な多様性を考察する問題。
- 問5 各国の産業・経済構造について、複数の統計を比較して特徴を読み取り、各国の経済状況に関する知識を基に、経済発展と産業構造に関する見方や考え方を働かせて考察する問題。
- 問6 東南アジア諸国の貿易と人口の関係について、輸出依存度と人口を示した表から各国の特徴を読み取り、国内の市場規模や貿易依存度に関する見方や考え方を働かせて考察する良問。
- 第4問 都市への人口集中とそれに伴う課題に関して、世界や日本の現状を多様な資料から読み取り、都市や人口に関する知識や理解を基に、各課題について探究する問題で構成されている。
- 問1 都市への人口集中について、都市人口に関する複数の指標を示した表から各国の特徴を読み取り、都市化と経済成長の関係性に関する見方や考え方を働かせて考察する問題。
- 問2 先進国の都市の発達過程において生じる問題について、発達過程をモデル化した資料から各過程における特徴を読み取り、提示された問題をモデルに当てはめて考察する良問。
- 問3 都市部での人口集中が進む背景について、地域別の人口推移を示した図から特徴を読み取り、都市化の背景と見通しを人の移動に関する見方や考え方を働かせて考察する問題。
- 問4 先進国の都市交通にかかわる取組について、手段と目的を示した説明文を読み取り、よりよい都市交通のあり方について構想する問題。
- 問5 発展途上国の大都市でみられる交通渋滞について、ジャカルタの交通手段の利用割合の変化等を示した資料から実態を読み取り、交通渋滞の有効な対策を構想する問題。
- 問6 都市問題とその発生要因について、生徒が作成した資料を基に、農村からの人口移動と都市問題の因果関係を考察し、都市問題の解決へ向けた取組を構想する問題。
- 第5問 高知県須崎市周辺の地域調査に関して、地図や統計などの多様な資料を読み取って地域

の地理的特徴を概観し、地形と土地利用や防災、産業や地域間の結びつきについて地理的な見方や考え方を働かせて考察し、見出された地域の課題をさらに追究するための方策を構想する、探究的に構成された大問である。「地理B」との共通問題である。

- 問1 高知県から大都市圏への公共交通機関別の旅客数について、香川県と比較した図から特徴を読み取り、地理的近接性等の見方や考え方を働かせて地域同士の結びつきを考察する問題。
- 問2 須崎市周辺の地図や衛星写真から地域の特徴を読み取り、地形に関する知識を基に、文章に示された内容と照らし合わせながら、自然環境と人間生活の関わりについて考察する問題。
- 問3 異なる年の二つの地形図を比較して読み取った情報を基に、文章に示された内容を地図に重ねながら、人間が自然環境に与える影響について考察する問題。
- 問4 須崎市及び高知県の農業の現状について、生産や出荷状況を示す資料から特徴を読み取り、文章に示された内容と照らし合わせながら、産地と消費地の需給を考察する問題。
- 問5 自然災害への対策について、津波の対策に関する写真から特徴を読み取り、自然との関わりから多面的・多角的に考察し、地域性を踏まえた防災のあり方を主体的に追究する問題。
- 問6 生物多様性の現状と課題の解決に向けた取組について、地図から在来種と外来種の分布の傾向を読み取って考察し、持続可能な自然環境と人間生活の関わりを構想する問題。

3 分量・程度

- 第1問 大問全体としては、資料から情報を読み取り、知識を基に考察したり、因果関係を論理的に考察したりする標準的な難易度の問題で構成されている。地理的技能に関する3問と自然災害と防災に関する3問とに大別されており、受験者にとっての負担が軽減されたと考えられる。問4は、地理的事象を扱いつつも生活経験上の知識で解答できる易問であるなど、問題別の難易度の緩急が明確である。分量や文字数は適切である。
- 第2問 大問全体としては、標準的な難易度の問題で構成されているが、問題による難易度の緩急が付けられていた。問1～問3のように、受験者にとっては馴染みがない題材を扱った写真や資料もみられたが、地理的な見方や考え方を働かせれば解くことができる問題が多い。一方、問6は問題文に示された条件を踏まえて解答する必要があり、戸惑った受験者もいたと推察される。分量や文字数は適切である。
- 第3問 地図や図表の読み取りに加えて、東南アジア各国に関する人口、宗教、経済状況に関する知識を基に解く問題もあり、やや難易度の高い問題で構成されている。問6は難易度は高いが、学習で身に付けた知識に留まらず、見方や考え方を働かせて思考する力を問う問題である。分量や文字数は適切である。
- 第4問 大問全体としては、都市、人口問題に関連した標準的な難易度の問題で構成されている。初見の資料が多く難しく見える問題もあるが、図や表から読み取れる内容を基に思考する良問が多い。モデル化について、問2は時間軸・空間軸に配慮した良問となる一方で、問6は因果関係が簡素化されすぎていて、その他の要因が読み取りにくいものとなっている。具体化と抽象化のバランスに配慮した作問が必要である。分量や文字数は適切である。
- 第5問 大問全体としては、図や表を用いて判断する標準的な難易度の問題である。一方で、問6のカモシカとアライグマの分布の考察では、生物地理学的な観点を踏まえて資料を適切に読み取れば解答できるが、取組に関する具体例の構想では、人間の働きかけ方が与える自然への影響についての判断が難しかったと考えられる。分量や文字数は適切である。

4 表現・形式

第1問 多様な地図や資料から読み取ったことを基に正誤を判断する問題、基礎的・基本的な知識を問う問題など、全体的にバランスよく出題されている。問3は、地形図Pから宿場町の立地に関する読図は困難であり、陰影起伏図など地形を判断する図を入れる等、初見でも読み取りやすい資料の提示が望まれる。

第2問 生活・文化について、様々な資料を用いたバランスの良い出題である。全般的に資料過多にならず、与えられた資料を丁寧に読み解くことが求められる。問6は、地域間の時差について選ぶことを求めている設問であるが、選択肢の文章の誤りを探そうとして戸惑った受験生もいたのではないかと考えられ、条件提示の方法の工夫が望まれる。

第3問 東南アジアを対象に自然環境や生活・文化の多様性について問う問題である。全体的に与えられている資料を丁寧に読み取り、様々な知識を関連付けて考察することを求めている問題が多い。様々な切り口からの設問となっており、バランスの良い出題であるが、写真が小さいこと等、戸惑う受験生もいたのではないかと考えられる。

第4問 生徒が都市への人口集中とそれに伴う課題について、発展途上国と先進国を比較しながら探究活動をするという設定であり、実際の授業場面が想定される。モデル化した図を用いるなど一般的傾向を問う問題や、実際の都市を事例に発展途上国と先進国の地域性を考察する力を問うなどバランスの良い出題であった。

第5問 地域調査を切り口として、生徒が様々な調査活動、資料から考察する場面を設定しており、特にキャラクターや動物といった興味深い資料を基に考察する場面設定は、探究活動に関心を高める工夫があり適切である。一方で、その過程は実際の高等学校の授業等の展開事例に近いものが求められ、大問全体でのテーマの一貫性については工夫が求められる。

5 ま と め（総括的な評価）

全体を通して、受験者が地理の授業で学習してきた基礎的・基本的な内容を基に出題されており、問題作成方針に則った出題である。また、学習を通して身に付けた知識・技能を問う問題や、モデル化された資料から情報を読み取り、地理的な見方や考え方を活用して考察させることにより思考力・判断力を問う問題、課題の解決へ向けて探究する力を問う問題がバランスよく配置されている。大問別に見ると、生徒が自ら問いを立てて探究的に考察する場面設定や、様々な方法で地域を調べて考察する過程が設けられており、学習過程に沿った出題が重視されている。今後は、問題の順序、関連付けのある資料の提示等、学習を深める過程の参考になるような一層の工夫が望まれる。各問別に見ると、都市内部の交通渋滞の実態と対策を検討する問題等、真正性を意識した問題が見られる他、現代世界の時事的なテーマを、歴史や公民諸科目的要素を交えながら出題された問題が見られる等、出題方法にも幅の広さが見られる。難易度で見ると、緩急を付けつつも全体的には標準的である。写真等の判読に難がある箇所も見られるが、全体的には資料等が有効に示され、問題文や資料が著しい過多にならないよう配慮されており、解答時の戸惑いも軽減されたと考えられる。これらの点は、昨年度の要望を真摯にご検討いただき、改善していただけたものと受け止めている。以上のことから、安定性と挑戦性を大切にしつつも、形式面、内容面ともに、受験者が地理で学んだり考えたりしてきたことが身に付いているかどうかを評価できる問題がバランスよく出題されたと評価できる。

地 理 B

1 前 文

共通テストは、大学（専門職大学、短期大学、専門職短期大学を含む。以下同じ。）への入学志望者を対象に、高等学校（中等教育学校及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ。）の段階における基礎的な学習の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的としている。

共通テストでは、平成21年告示学習指導要領において育成することを目指す資質・能力を踏まえ、知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題が重視されている。地理の問題作成方針においても、思考の過程に重きを置きながら、地域を様々なスケールから捉える問題や、地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり、資料を基に検証したりする問題、系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題を含めて検討すると示されている。

なお、評価に当たっては、報告書（本試験）14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

第1問 世界の自然環境と自然災害に関して、様々なスケールの地理的事象について図表を読み取り、地形や気候、自然災害に関する分布や要因に関する知識を基に、事象の空間的な規則性や傾向性に着目して、諸地域の自然環境や自然災害について考察する問題で構成されている。

問1 各地域の降水量やその季節変化といった降水の特徴に関する表を読み取り、隔高度などの気候因子に関する知識を基に、各地域の降水量や季節変化を考察する問題。

問2 内陸河川の位置と流域に関する資料を読み取り、低緯度地域における気圧帯の季節変化に関する理解に基づいて、内陸河川が流れる方向と河川流域の環境問題の原因を考察する問題。

問3 3つの地域における侵食の速さに関する表を読み取り、それぞれの地域における自然環境と人間生活に関する知識を基に、時間スケールに応じた侵食の速さを各地域の侵食量により考察する良問。

問4 熱帯低気圧に関する図を読み取り、熱帯低気圧の発生要因と発達及び恒常風に関する知識を基に、熱帯低気圧の発生場所とその移動について考察する問題。

問5 3地点の河川流量の季節変化に関する図を読み取り、各地域の気候を構成する要素に関する知識を基に、気温や降水量と河川流量の関係性について考察する問題。

問6 大縮尺の陰影起伏図と地形分類図を読み取り、沖積平野の地形と自然災害に関する知識を基に、豪雨時の災害危険性について判断する問題。

第2問 資源と産業に関する大問。水産業や農牧業を中心に出題されている。各種統計資料の読み取り、基本的な知識とその活用が求められる。資源とその生産に関して、多面的・多角的に考察する設問から構成されている。

問1 アルミニウムと粗鋼の生産国とその原料の産出地を読み取り、鉱産資源の偏在や金属生産に関する知識を基に、主要な資源の分布と大地形等の関係性や金属生産の立地要因について考察する良問。

問2 ツナ缶詰の生産量と輸入量の図形表現図を読み取り、カツオ・マグロ類が暖海性魚類である知識を基に、水産加工業の立地や地域の人々の食文化について考察する良問。

問3 2地域の漁獲量と養殖業生産量の推移に関するグラフを読み取り、イワシ類やエビ類の生態と生産に関する知識を基に、生産量の変化について考察する問題。

問4 米の栽培カレンダーに関する資料を読み取り、4か国の緯度や気候環境に関する知識を基に、米の生産方法や作付から収穫までの期間の長さについて考察する問題。

問5 世界の諸地域における穀物の輸出入量に関する資料を読み取り、各地域の生産及び国を超えた穀物の需給状況に関する理解に基づいて、北アメリカとヨーロッパの輸出入の変化について考察する問題。

問6 いくつかの国における携帯電話と固定電話の契約数に関する資料を読み取り、各国の経済状況や生活様式に関する知識を基に、電話の契約数の変化について考察する問題。

第3問 日本の人口や都市に関して、GISを活用した地図やグラフなど多様な資料を読み取り、時代の変化や地域的な課題に着目して、他国と比較しながら人口や都市に関する地理的諸事象について多面的・多角的に考察する設問で構成されている。

問1 日本を含む4か国における1970年と2010年の年齢別人口構成のグラフを読み取り、それぞれの国における出生率と死亡率の変化を示したグラフと結びつけて、人口構成と人口動態の関連性を考察する良問。

問2 日本、フランス、ベトナム、メキシコのいずれかが示された社会増加率の推移に関するグラフを読み取り、各国の社会背景に関する知識を基に、国際的な人の移動を考察する問題。

問3 アメリカ合衆国、韓国、シンガポール、ノルウェーにおける現在の合計特殊出生率について、日本と比較して人口政策の背景を考察する問題。

問4 社会保障負担率と租税負担率に関する資料を読み取り、先進国における少子化対策についての知識を基に、財源を国民がどのように負担しているかを考察する問題。

問5 いくつかの指標に関する都道府県単位の階級区分図を読み取り、日本の都市構造と生活圏に関する知識を基に、通勤・通学行動などの地域差について考察する問題。

問6 認可保育所の定員と開設年、6歳未満世帯員のいる世帯数の変化に関する統計地図を読み取り、GISで作成された地図を活用する技能を基に、保育サービスの拡充による待機児童問題の解消について考察する問題。

第4問 地中海周辺地域の地誌に関して、多様な資料を読み取り、地域に関する知識や理解を基に、思考力・判断力・表現力等を測る設問で構成されている。Aでは、地中海周辺地域の自然と社会に関して総合的に問い、Bではスペインとチュニジアを比較しながら文化や経済を多面的・多角的に問うている。

問1 主な発電施設をエネルギー源別に示した地図を読み取り、自然エネルギーの分布に関する知識を基に、自然環境を活かした自然エネルギーの発電利用について考察する良問。

問2 モロッコにおけるトマトの栽培や貿易に関するグラフを読み取り、北アフリカとヨーロッパとの結びつきに関する知識を基に、トマト輸出国としてのモロッコについて多面的・多角的に考察する問題。

問3 完成乗用車の貿易に関するグラフを読み取り、イスラエル、スペイン、モロッコそれぞれの経済状況の変化に関する知識を基に、産業と貿易の経年変化を考察する問題。

問4 北アフリカと西アジアの国々におけるイギリスとフランスからの観光客数と国際援助額が示された統計地図を読み取り、関係する国と地域の結びつきに関する知識を基に、北アフリカと西アジアの国々とイギリス及びフランスとの人や資金の流れを考察する良問。

問5 スペインとチュニジアの都市景観に関する衛星画像と景観写真を読み取り、都市の内部構造や形成に関する知識を基に、両都市における旧市街と新市街の特徴について考察する問

題。

問6 スペインとチュニジアのいずれかの全就業人口に占める産業別・男女別の就業人口割合の推移を示したグラフを読み取り, 2か国の宗教や産業に関する知識を基に, 男女別の第二次産業と第三次産業の変容を考察する問題。

第5問 高知県須崎市周辺の地域調査に関して, 地図や統計などの多様な資料を読み取って地域の地理的特徴を概観し, 地形と土地利用や防災, 産業や地域間の結びつきについて地理的な見方や考え方を活かして考察し, 見出された地域の課題をさらに追究するための方策を構想する, 探究的に構成された大問である。「地理A」との共通問題である。

問1 高知県から大都市圏への公共交通機関別の旅客数について, 香川県と比較した図から特徴を読み取り, 地理的近接性等の見方や考え方を働かせて地域同士の結びつきを考察する問題。

問2 須崎市周辺の地図や衛星写真から地域の特徴を読み取り, 地形に関する知識を基に, 文章に示された内容と照らし合わせながら, 自然環境と人間生活の関わりについて考察する問題。

問3 異なる年の二つの地形図を比較して読み取った情報を基に, 文章に示された内容を地図に重ねながら, 人間が自然環境に与える影響について考察する問題。

問4 須崎市及び高知県の農業の現状について, 生産や出荷状況を示す資料から特徴を読み取り, 文章に示された内容と照らし合わせながら, 産地と消費地の需給を考察する問題。

問5 自然災害への対策について, 津波の対策に関する写真から特徴を読み取り, 自然との関わりから多面的・多角的に考察し, 地域性を踏まえた防災のあり方を主体的に追究する問題。

問6 生物多様性の現状と課題の解決に向けた取組について, 地図から在来種と外来種の分布の傾向を読み取って考察し, 持続可能な自然環境と人間生活の関わりを構想する問題。

3 分量・程度

第1問 資料や地図に表された諸事象の理解を問う標準的な難易度の設問で構成されている。問2は, 周囲の地形や緯度に関する知識や視点を必要とする問題で, 題意にたどり着けなかった受験者もあったと推察される。問4は, 熱帯低気圧が発生する地域や経路に関する知識を必要とする問題で, 学習した内容の差が見られたと考えられる。資料数や文章量はともに適切である。

第2問 統計資料やグラフに表された資源と産業に関する基本的な知識を問う標準的な難易度の設問であったが, やや難易度の高い問題も見られる。問5は, 穀物の輸出入量を地域別に考察したり1990年代終盤と2010年代終盤それぞれの変化を判断したりする問題で, 解答に至るまでに時間を要したと考えられる。統計資料が多様な方法で示されている。文章量は適切である。

第3問 グラフや地図に表された諸事象を読み取ったり考察したりするやや難易度に差がある設問で構成されている。問4は, 題意の理解に, 問5は, 統計地図の読み取りに, それぞれ時間がかかり, 判断に迷ったと考えられる。図表の数は適切である。

第4問 習得した知識を活かすことができ, 解答しやすい適切な難易度の設問で構成されている。問4は, 北アフリカと西アジアの7か国に関する統計が示されており, 根拠となる知識を想起するまでにやや時間がかかったと思われ, 該当地域に対する丁寧な理解が求められる。設問数や資料数はともに適切である。高等学校で学習した内容が得点に反映される大問である。

第5問 大問全体としては, 図や表を用いて判断する標準的な難易度の問題である。一方で, 問6のカモシカとアライグマの分布の考察では, 生物地理学的な観点を踏まえて資料を適切に読

み取れば解答できるが、取組に関する具体例の構想では、人間の働きかけ方が与える自然への影響についての判断が難しかったと考えられる。分量や文字数は適切である。

4 表現・形式

第1問 世界の自然環境と自然災害に関する諸事象について、様々な資料を用いて考察をするための多様な図表が用いられており、多面的・多角的に考察することのできる出題形式で適切である。

第2問 資源と産業をテーマに地理的事象を理解するための様々な資料を用いて、知識とその活用を求め、多面的多角的に考察する出題形式で適切である。グラフや地図の表現方法として、全てに異なる種類が用いられ、論理的な思考を促す工夫のある形式となっている。問5は、題意にたどり着いていない受験者が多いと考えられ、思考を促すような工夫を求めたい。

第3問 日本の人口や都市についてグループで探究する場面設定であり、全体を通して様々な国や地域における人口問題と関連する問題について生徒が主体的に探究するプロセスで出題されており、適切である。実際の授業場面においても、地理的な諸課題に取り組む際には、資料収集から図化、考察、発表に至るプロセスを経るため、現実場面に即した適切な出題形式。問5は、出題されたテーマと扱われた指標の結びつきが弱く、都道府県単位の指標が適切であったかどうかについて検討が必要である。

第4問 Aパートは地中海周辺地域の地誌を、Bパートはスペインとチュニジアの比較地誌をテーマとしており、地図やグラフなど多様な資料が用いられることで、地域的特色の理解や地域間の結びつき、構造や変化について問う設問構成となっており適切な出題形式である。問5は、衛星画像から建造物や街路網の違いを見分け、都市の形態を捉えることが難しい資料である。

第5問 地域調査を切り口として、生徒が様々な調査活動、資料から考察する場面を設定しており、特にキャラクターや動物といった興味深い資料を基に考察する場面設定は、探究活動に関心を高める工夫があり適切である。一方で、その過程は実際の高等学校の授業等の展開事例に近いものが求められ、大問全体でのテーマの一貫性については工夫が求められる。

5 まとめ（総括的な評価）

問題作成の基本的な考え方及び地理の問題作成方針に沿った問題で構成されている。全体を通して平成21年告示の学習指導要領において育成することを目指す資質・能力を問う内容で、生徒が「主体的・対話的で深い学び」を実現するための学習する場面を想定した問題が随所にみられるなど、多様な資料の読解を通して発揮される思考力・判断力・表現力等が試される試験となっている。

第3問と第5問で場面設定がなされ、特に第5問は、探究の入り口となる日常生活の中から地域課題を発見し解決方法を構想する場面設定の問題であり、身近な地理的事象を多面的・多角的に構想する過程が意識されている点を特筆したい。全問題を通して高等学校での学習内容を踏まえた内容の様々な問題で構成され、出題分野のバランスは適切である。また、様々な地理的事象を表現するための主題図は図形表現図や階級区分図、メッシュマップ等で表現されており、生徒が探究活動を行う上での資料のまとめ方を考える上で示唆に富んでいる。一方で、第3問の問5のように、子育て環境といった都道府県内でも地域差がみられる事象に関しては、高等学校での学びに即した適切な資料のスケールを用いる工夫をお願いしたい。

全体的には適正な難易度であったものの、全ての問題に受験者にとって初見となる資料が付され、これらを着実に読み取り、多面的・多角的に考察することが求められ、解答に相当の時間を要する試験であったといえる。一方で、初見となる資料を用いて受験者が高等学校で身に付けた資質・能

力を問うことから、受験者の生活環境によって資料の解釈に違いが生じることがないように注釈等を丁寧に加えるなどの更なる工夫をお願いしたい。なお、受験者に馴染みがない国や地域が取り扱われ、学習量に比して高得点が取りにくい傾向は依然として続いており、この点については改善をお願いしたい。

全体を通して、豊富で工夫を凝らした資料の提示、問題を解きながら様々な地理的事象に触れることができる出題形式などが随所に見られ、高等学校における授業改善の指針となる試験である。